

[概要]

本稿は、富山県富山市・高岡市・射水市の自主防災組織を対象に、3市6団体の活動事例を取り上げ、自主防災活動の内容や活動方法に地域的な特徴が生まれる要因について解明を行うことを試みた。各自主防災組織の活動実態について比較をした結果、訓練の内容や方法に地域によって異なる特徴が見られた。地域による活動の特徴を生む要因については、「活動をけん引するリーダーの存在」、「地域の子どもの減少」、「東日本大震災等大災害の発生」、「組織規模・設立年数・設立経緯等組織的な特徴」、「地域の地形や地盤による罹災の危険性」の5つの要因を挙げることができた。さらに、5つの要因から自主防災組織の類型化を試みたところ、「自然環境型」と「社会環境型」の大きく2つに分けられた。自然環境型には地域が罹災する危険のある災害条件によって自主防災活動を実施している組織が分類され、1団体のみ当てはまった。社会環境型には自然環境以外の要因が自主防災活動に影響している地域が分類され、全ての組織が該当した。以上より、富山県の自主防災組織の活動は、地域の罹災の危険性など災害条件を踏まえた活動はあまりなされていないといえる。今後の自主防災活動では、講座や図上訓練などの机上訓練に加え、地域が罹災する危険のある災害条件を踏まえた実践訓練を日ごろから行うことがますます必要であろう。